

サポートツール全国キャラバン2011「教材教具研修会」in 横浜

発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた
指導・支援の具体的方法

研修会報告書

2012年2月5日

横浜市開港記念会館

主催：特定非営利活動法人 全国LD親の会

共催：神奈川県LD等学習障害児・者親の会「にじの会」

【研修会開催趣旨】

2007年4月、学校教育法が改正され、特別支援教育が法的に位置づけられた。小、中学校での支援が本格的に始まり、LD等の発達障害がある児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の具体的方法が求められている。全国LD親の会では、2006年度から2年間にわたり、文部科学省から「障害のある子どもへの対応におけるNPO等を活用した実践研究事業」の委嘱をうけ、「LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害向けの教材・教具の実証研究」を日本発達障害ネットワーク（JDDネット）の加盟団体等と共同で行い、学校や療育機関での先行事例・有効事例、家庭での工夫等による教材・教具のアイデア、事例を収集して、LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害のある子どもの困難やニーズに合わせた有効なサポートツール（教材・教具など）を体系的に整理し、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を作成した。

<http://www.jpald.net/research/index.html>

2009年度からは、日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組んでいる。

- 1、子どもの成長を見据えた長期的な視野にたったサポート
- 2、子どもを中心に、関係する多方面における専門家と連携したサポート

という趣旨のもと、教育現場における教材・教具のみならず、就労・自立を見据えた子どもの生活全般にわたるサポートも含めて個別の指導計画作成の参考となるよう、具体的な教材・教具の活用方法についての研修会を開催してきた。準備や開催後の連携を視野に入れて、全国LD親の会加盟の開催地域の親の会を中心に、特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って進めた。

今まで、2009年11月1日新潟市、2010年2月21日佐賀市、同年5月30日秋田市、同年11月21日岐阜県大垣市、2011年2月6日徳島市、同年6月5日札幌市、同年9月4日広島市にて教材教具研修会を開催し、講演とワークショップというプログラムや具体的な指導方法の提案が大変好評で、開催後のそれぞれの地域活動に結びつき始めている。

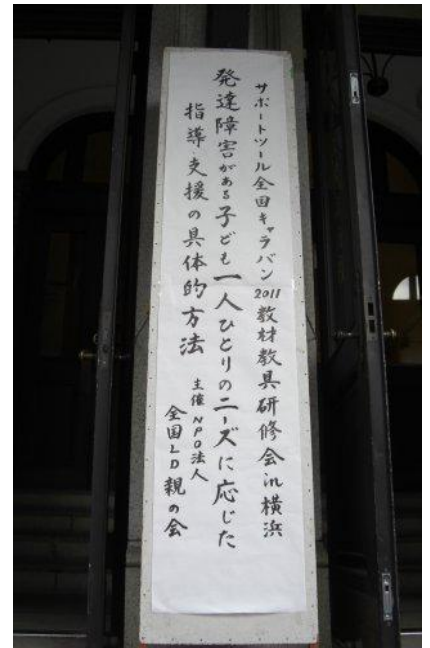
今回の横浜市での開催は、神奈川県LD等学習障害児・者親の会「にじの会」が中心になって準備を進めた。学校現場で指導にあたる多くの小学校教員と横浜の作業療法士など多方面における専門家と連携し、LD等の発達障害がある児童生徒に対しての質の高い支援をおこなっていくためにも、身近な教材・教具を活用していく具体的サポート例を提示する研修会を企画した。



【研修会開催要項】

日 時：2012年2月5日（日）9：30～16：40

会 場：横浜市開港記念会館 横浜市中区本町1-6



プログラム

- 1、講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」
～使い方が変わる教材の有効性～

講師 山田 充 氏

(特別支援教育士スーパーバイザー・堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・
堺市特別支援教育専門家チーム・堺LD研究会・「コミ☆トレ」番組委員)

- 2、講演2 「作業の工夫で子どもたちを元気に！」
～作業療法士が提案する教材教具と支援方法～

講師 辻 薫 氏

(大阪府作業療法士会発達部門代表・日本作業療法士協会認定作業療法士・
大阪発達総合療育センターリハビリテーション部・
大阪市教育委員会特別支援教育専門家チーム)

- 3、ワークショップ

「子どものテスト等や、ビデオによる事例検討の手法ワーク」

主 催： 特定非営利活動法人全国LD親の会

共 催： 神奈川県LD等学習障害児・者親の会「にじの会」

後 援： 神奈川県教育委員会・横浜市教育委員会・一般社団法人日本LD学会
社団法人日本作業療法士協会・一般社団法人神奈川県作業療法士会
日本感覚統合学会

事務局： 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 バロール代々木415

TEL/FAX： 03-6276-8985 E-MAIL： jimukyoku@jpald.net

URL： <http://www.jpald.net/>

「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと 教材の活用～使い方で変わる教材の有効性～」

報告者：山田 充（特別支援教育士スーパーバイザー）

講演は、具体的な子どもの姿とその子どものもつトラブルを紹介しながら、その要因が思いもよらない原因で起こっていることを説明することから入っていった。そのことに対応しないと二次障害となる。学校現場などで問題行動を起こす子どもたちの多くは、学習困難が要因であることに気づいてもらえず、この部分への支援がしてもらえず、そこから問題行動に発展する二次障害であることが多い。二次障害というものがあるということを強調しながら話を進めた。

学習困難の要因を探る体験のために、子どもの算数のテスト問題などを提示し、誤りの要因をきちんと考えていき本人の特性と結びつけることで、学習支援の具体的な方法を見つけることが出来ることを紹介した。分析の方法についても、後のワークへの導入という意味でも少し紹介しながら進めた。子どもの特徴を明らかにし、中学生に勉強が出来ない要因を教えて、本人の自覚を促した事例なども紹介した。

このように子どもの様子を紹介する事例ベースで、講演をすすめ、その事例の子どもへの対応を紹介する中で、実際に使用している教材（データベースで紹介されている物も含めて）のコンセプトを紹介するとともに具体的な使用方法について説明していった。

次の支援方法を障害特性ごとにまとめて説明した。LD状態への対応は認知への支援、ADHD 傾向への支援は集中への支援、広汎性発達障害傾向の子どもたちには、その特性の理解と特性に沿った道筋の支援が必要であることを紹介した。

2時間に及ぶ講演であったが、参加者はとても熱心に聞いて下さり、たくさんの有り難い感想を頂いた。感想の中で特徴的なことは、子どもの様子や行動を分析することの重要性を認識した、また今後実践してみたいと言うような積極的な感想を多数いただいた。



「作業の工夫で子どもたちを元気に！」

～作業療法士が提案する教材教具と支援方法～

大阪府作業療法士会 事業部発達部門代表 辻 薫

日本財団様の助成をいただいて全国的に展開してきた、発達障害がある児童生徒への教材教具の開発と実証および研修会は、横浜開港記念館で最終回を迎えた。研修会の開催にあたっては、神奈川県作業療法士らに支援を依頼し、研修会ワークショップでの参加協力をお願いした。

当日の研修会では、これまでの基本的内容である教師からよくある相談例を取り上げ、作業療法士の立場から解説し、教材教具の工夫と援助方法について提案した。さらに、今回は、これまで取り上げていなかった幼児や高校生の事例も加えて紹介したことで、幅広い年齢層の児童・生徒への対応についても説明することができたと思う。

具体的な相談事例では、

- 1、授業中、じっと座ってられない、椅子にもたれかかり姿勢保持が困難、集中が続かない事例の困難の背景とその手立て
低緊張でバランスが苦手な子、多動衝動性のある子、感覚過敏のある子
幼児や高校生のからだ作りの視点からの体操の紹介
- 2、鉛筆の持ち方がうまくできず、文字の形が整わない事例の困難の背景とその手立て
新1年生の通常の学級での鉛筆の持ち方調査からの説明
筆記具の選び方、とくに効果的な筆記具や消しゴムなどの紹介
- 3、雑巾がうまく絞れない、両手で床の雑巾がけが難しい事例の困難の背景とその手立て
小学生と高校生の事例から
感覚過敏と身体感覚、空間認知の弱さについて
- 4、そのほか、はさみや縄跳び、コンパスなど学校で使用する教具で最近開発されてきた扱いやすいものを紹介した。
そして最後にまとめとして、
(1) 効果的な学習活動を支援するためツールの導入は通常の学級でも可能であり、有効であること
(2) 教育と医療の連携で、子どもへの支援の質が向上すること。とくに作業ができるようにするための作業療法の視点は、学習活動を促進することができる
(3) 子どもの様子を学校生活の場で教師と作業療法士が継続的に相談連携し、ニーズに対処していくことが効果的であること、
を提案した。

当日は、神奈川県だけでなく広く千葉、茨城など関東圏から10名を超える作業療法士の参加があり、事例検討を実施するワークショップでの10班のグループに各班1名ずつ配置し、討論に参加してもらった。各グループでの討議では、特に事例の作業スキルにおける感覚調整や運動スキルの課題について意見を述べるようお願いした。このようなワークの実践は、作業療法士が関わる学校支援での事例検討会議のモデルとなるものであり、参加者は大いに勉強になったと考える。主催された保護者会スタッフの皆様のお話では、神奈川県作業療法士会との連携はまだ十分ではないとの報告があったので、この研修が今後の連携の必要性を喚起する、またとない機会であったことを報告しておく。

今後は、日本作業療法士会と連携し、全国的に学校区への作業療法士の配置をミッションとして、特別支援教育体制における専門家との連携の推進活動につないでいきたいと考える。

本事業の推進にお力添えいただいた日本財団様及び全国LD親の会様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

ワークショップ 報告

ワークショップの準備として参加者にあらかじめ職業・資格を伺っておき、10グループに分け、各グループに教職員、作業療法士、支援者、保護者が入る構成を取りました。(1グループ7～10名)

事例は小学校3年生の男児を取り上げました。食事、ドリル練習、キャッチボール、習字や将棋をしている生活場面のビデオと、配布された作文や国語・算数のプリントから子どもの特性を読み取り、課題と支援について各グループで話し合い、全体に向けて発表し、最後に先生が考察と解説をするという流れで行われました。

グループ討議では、学習面の問題指摘だけでなく、姿勢・動きの様子からの課題提起、保護者の立場からの関わり方の指摘など、それぞれの経験・立場からの意見が出されていたようで、どのグループも活発に意見交換がされていました。その後の発表で挙げられた内容を山田先生と辻先生が学習面・作業(感覚・運動面)面に分けてホワイトボードに書き込んでいかれ、両先生からコメントをいただきました。

辻先生からは、こだわりという指摘に関して「こだわり行動をこだわりで終わりにしないで、何かの感覚の不自由さや辛さから起きているものではないかという視点が大事」という指摘がありました。また、道具の使いにくさが身体の疲れを引き起こし、集中力のなさ、姿勢保持の乱れなどにつながっていくため、疲れを和らげるような道具の工夫、足台などの設定による姿勢保持が可能になる補助具の使用等について話していただきました。



山田先生からは、プリントの書字の形の細部、縦線横線マスなどの使い方、字の乱れや計算問題の誤解答のパターン等の細部に着目して子どもの特徴をとらえ、考察していくと話していただきました。子どものできることを増やすことで達成感を持たせる重要性についても、「課題への取り組みの集中力の途切れに対して、取り組み可能だとわかっている課題の量自体を減らすのではなく、集中力が途切れない程度、例えば半量の課題をまずは子どもに提示し、やり遂げさせることにより達成感を持たせ、次に残りの半分を提示して、できたらまたほめる。目に入る量の調節によって、子どもに倍の達成感を与えると良い」という具体的なアドバイスがありました。具体的な指示に従った時に正当な評価を与えることによって、「やったらどこでどのようにできるようになるか」を理解させることも大事である、というお話も印象的でした。

参加者からの指摘に先生方からの解説が加わることにより、事例の子どもに対してのアドバイスに更なる専門性が増していくものへと変化していくことがよくわかり、大変勉強になりました。



保護者は、このようなワークショップが初めてという人が多く、「様々な立場の方と事例を通し客観的に話すことで、子どもたちのことをこのように真剣に考え支援しようとして下さっていることがわかり、感激した。」という意見が多く聞かれ、支援者からは「保護者の話を聞くことができて良かった。」という意見が寄せられました。

サポートツール全国キャラバン2011「教材教具研修会」in横浜
**発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた
 指導・支援の具体的方法**

講師 山田 充 氏

講師 辻 薫 氏

2012. 2. 5(日) 9:30~16:40 横浜市開港記念会館

参加：一般 76名 会員 27名 計103名

<アンケート集計>

アンケート回答者数 70名

1. ご回答者の属性をお教えてください。

(1) 保護者

「にじの会」の会員	その他	合計
14	12	26

(2) 教員

幼稚園	小学校	中学校	高等学校	養護学校	その他	合計
—	24*	2	—	—	—	26

*通級教員1名含む

(3) 作業療法士

医療	療育	福祉	その他	合計
1	4	—	3*	8

*教育・訪問リハビリなど

(4) その他

療育指導員	児童デイサー ビス保育士	ソーシャル ワーカー	巡回相談員	不明	合計
3	1	1	1	4	10

2. 本日の企画はいかがでしたか? ご感想をお聞かせください。」

(1) 講演1 (9:45~)

「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」

~使い方で変わる教材の有効性~

保護者

- いろんな事例がすごく良かったです。
- 子どもの謎解きをこんな視点で解いていくんだと学ぶことばかりでした。私の市には、先生のように

な子どもをしっかりアセスメントできる専門性の高い人がいず、不登校へ繋がっている子どもたちがたくさんいます。とても悲しく腹立たしいことです。今日学んだことを持ち帰って広めていきたいと思いました。「漢字は思い出すもの」とは、思いませんでした。

- できないことの陰に色々な要素があることがわかり、どうしたら少しでも助けになるのかやってみたいと思います。
- 自分の子どもに当てはまることが多々あって、とても参考になりました。
- 問題行動の原因を分析することの大切さがとてもよく分かった。検査などで診断ができなくても、その子の特徴を冷静にとらえて合った支援をしたいと思った。また、障害の特性についても、もっとよく勉強したいと思った。
- とても為になるお話で目からウロコ！という感じでした。具体的指導方法が分からず時間だけ過ぎてゆく感じでしたが早速試したいです。
- 大変参考になりました。試してみたいことが沢山あり、どれからすれば良いか本人の器を前にして悩むところです。山田先生が常に指示してくださる位置にいらっしゃれば良いのにと残念でなりません。
- たくさんの事例をあげて説明してくださり参考になりました。明日から使えそうなことが聞けてとても良かったです。
- 今後の進路先での指導のヒントがたくさんありました。
- 具体的な事例でわかりやすかった。診断のでていない子、特に不注意優勢型のADHD型の子の本人の困り具合に気付くことのできる大切さを確認した。原因不明のまま不登校になってしまうと、わからないままになってしまうのです。また、関西弁のお話がとてもおもしろかったです！
- とてもお話のテンポがいいので、関西の言葉での先生のお話はスゴイと思いました。
- とても参考になりました。具体例がわかりやすく、お話も楽しかったです。もっと時間があれば、じっくり伺いたいお話ばかりでした。もう一度、山田先生のお話をじっくり聞いてみたいです。
- 大変役立ち、また子どもの理解をさらに深めることができました。
- 具体例と解決法がとてもわかりやすかったです。家庭では同じようなやり方で学習サポートをしていたので安心しました。
- 大変参考になりました。覚えるのではなく思い出す訓練が足りないなど、子どもの認知の仕方をしっかりとらせることが大切だと思いました。
- 時間が足りなくて残念でした。二回目ですが、最後の方も聞いてみたかったです（笑）先生の「どこが問題か」見つける力と、子どもと直接話して支援していく所が素晴らしいと思いました。肯定感も大切にして俺ルールに流れないで…と、支援する側のメンタル面での信頼関係が大切だと改めて感じました。そこがすごく難しいのですが。
- 具体例が多くてわかりやすかった。話もおもしろかった。
- とても参考になりました。ありがとうございます！私の子どもは中学1年生なので、丁度学習支援に悩んでいました。今日から早速工夫してがんばっていきたいです。学校の先生に今日のお話を聞いて頂けたら…と思いました。
- たくさんの事例を通し分かりやすく解説してくださったので、目からウロコが落ちたようでした。息子はADHD・LDなので、いろいろと不自由もあるのですが、頑張ろうという元気をいただきました。
- とても興味深く楽しいお話でした。今まで、通級というとコミュニケーション的な所ばかりで、LD的な視点が無いのが残念でした。こういう考え方、見方が広がっていくと良いなと思いました。WISC IIIを見て、どう支援したら良いか教えて頂けると、もっとうれしかったです。
- 具体的な事例を通しての支援方法を聞いて参考になりました。
- いろいろなケースのつまづきを見抜ける感性、技量が素晴らしいと思いました。
- 子どもが診断を受けてから数々の講演を聞いてきましたが、最も知りたかった内容でした。現在、

通級に通っていますが、内容に疑問を感じていました。それが確かなものだったと思いました。

教員

- とても勉強になりました。
- とても具体的で分かり易かったです。日常的に困難さを感じていた学習指導について、その指導と対応力が分かり、更に背景もよく分かりました。非常に有意義でした。
- 講演を聞いて、子ども達に成功体験をさせたいな、みんな困っていることがたくさんあるんだな、と改めて感じました。関西弁が新鮮で、頭に残る講和でした。時間があれば、後半の話も、もっと詳しく聞けたのかな、と思いました。
- 具体的なお話を、子どもの本音を交えてわかりやすく説明していただき、子どもの抱える困り感をつかむ糸口をつかめました。
- その子の学習の難しさ、問題行動がどんな特性からきているものなのかを正しくみとることが、いかに大切分かりました。大変興味深いお話でした。
- 分かりやすかった。話は速かったがおもしろかった。
- 事例がたくさん聞いて良かった。先生のお話のテンポが良く、わかり易かった。堺市の支援教育体制も見え隠れして、興味深いです。
- 個別の事例をわかりやすく説明していただき、大変参考になりました。現場でおこる様々な事象に対し、もう少し深く検証していくよう心がけたいと思います。
- とてもよくわかりました。「できる」という自信が、他方面への意欲になることが印象的でした。
- 大変具体的で分かりやすくお話してくださり、いかに特性に合った手だてを組むことが大事であるか、今更ながらに実感しました。その子に合った支援方法を探る、作り上げるために、いろいろなツール、教材を知らなくてはいけません。
- 実際の子どものことが聞いて、すぐ実践で使いたいと思える内容だった。飽きないお話で今日参加して良かったと思った。
- 具体的な事例をたくさんあげていただきながらの内容で、とても分かりやすかったです。もっともっと話を伺いたいくらいです。通級指導教室の担任になったばかりなので、このようなお話がとても参考になりました。その子の特性をしっかり知ることから、頑張っってやっていきたいと思っています。
- 多くの事例から、その子たち一人ひとりの認知の仕方、特徴を分かりやすく教えていただき、とても学ぶことができました。子どもの困り感に気づき適切な対応ができるよう、自分自身のみる目を育てたいと思います。
- 明日の授業で試してみようと思った。その子の理解の方法に合わせる、つまずきの原因の分析が大切と思った。
- 具体的な事例の話で現実感がありました。
- とてもわかりやすく、為になりました。うまく支援ができないことで、その子の将来が変わってくるのだと思い、胸が熱くなりました。学んで、現場で少しでも多くの子ども達にその子に合った支援を届けていきたいです。
- 早口で聞き取りにくいところがありましたが、関西弁が親しみ深くユーモアたっぷりで楽しく参加できました。児童の見取り、聞き取りの大事さ、そこから支援方法を具体的に考え行うことがよく分かりました。
- 漢字、まず見る・覚える・意味を理解する・書く・という流れ、大変勉強になりました。[小学校教員]
- 子どもの事例に合わせて、実際の指導と言葉かけ等、くわしく話が盛りこまれていてわかりやすかった。
- 原因の分析や具体的な支援方法が示され、大変ためになった。ただ、時間が短くて、全ての内容をじっくり聞くことができなかったのが非常に残念に思った。
- 現在関わっている子どもと似たケースについてお話があったので、明日からすぐに実践できそうな目標をいただけて大変有意義でした。

- 前にも先生のお話を伺いましたが、その一部しか活用できていなかった。今回も短い時間の中では、伝えきれない先生のお話でした。あの児童と全く同じ、帰ったらこれを利用しようと考えながら聞いていました。やることが山のようにありながら、少しずつしか進んでいないことに反省しました。実践に基づいた講義でわかりやすかったです。
- とても勉強になりました。
- 大変充実した内容でした。子どもの困り感と言動から見取る課題とその解決方法が示されたので、明日から具体的に用いていける内容で勉強になりました。もう少しゆっくり伺えれば、嬉しかったです。ex. 教材を実際に使った work shop など。
- 実際の先生の豊かなご経験の中のお話で、とても為になるお話を伺うことができました。先生のような方がいらっしゃる地域で、コーディネーターとして育っていくことができる先生方は、とても羨ましいと思いました。

作業療法士

- 子どもの姿から読み取ることがいかにできるかを、支えていこうとする側には必要なことがよくわかりました。自分の知識を広げていかなければと思いました。実践を伝えていただいて有り難かったです。
- 具体的支援方法で、テンポの良いお話はとてもインパクトがありました。個々に合った、それぞれの支援を考えることが大切になってくると感じました。大変勉強になりました。ありがとうございます。
- その子の特性に応じた支援がいかに大切か具体例を詳細に挙げて説明して頂き、勉強になりました。また、何につまずいているのかを見極め、介入するタイミングを逃がさないことも大切だと感じました。お母さん方には、「この子は努力が足りない」「ボーッとしている」「気が付く」という発言には、必ず理由があり、根性論では決して片付かない問題であるということをきちんと伝えていくようにします。
- 子どもたちがどのような事につまずきを感じているのかを、丁寧に分析して問題を解決していくという視点を学ぶことができました。どのように環境を設定して、学びやすくするのも大切だと感じています。
- 対象児童の特徴・特性を見極める力の大切さを具体的に知ることができました。その対応法を伝えて頂いた事が非常に役立ちそうです。又、先生の軽快な話し方が、イメージを沸かせ大変興味深く聴かせて頂きました。
- 一日かけてでも、全てのお話をききたかったです。こどもをよくみて、要因の的確な分析によって支援の方法が考えられるということで、ひとりひとりをきちんとみることの大切さを改めて実感しました。
- とても楽しい語り口で、集中してお聞きできました。
- 子どもを見る時の視点として、とても参考になりました。これを普段のクラス経営の中で日常的にやっていくと、どれほどの子どもが救われるのだろうかと思いました。
- 初めて参加させてお話しを伺いましたが、とても勉強になりました。講演時間だけみると、とても長いなあと思っていましたが、いざ話しを聞くととても短くあっという間で、一日通してゆっくり実践現場での経験談も含め話しを聞きたいと思いました。またこのような機会があれば、是非参加したいと思いました。それから最後に一言、やっぱり先生は早口で何か所か聞き取れない所があったので、ゆっくり話してじっくり噛みしめたいと思いました。ありがとうございました。
- 具体像とその原因、対応が分かりやすく、話もテンポがよくおもしろく聞けました。
- よかったです。短い時間で多くを伝えて下さって、ありがとうございました。もっと聞きたかったです。
- 早口だということですが、あの位の speedの方が集中できてよかったです。具体例を出してのお話だったので、とてもわかりやすく“やってみたい”と思えました。多動の子で衝動性の typeのお

子さんの関わり、また小4～小5以降授業で抽象的なことを勉強し始める頃のお子さんのつまずきについて、もう少しお話が聞けたらと思いました。

その他

- たくさんの子どもの事例とサポートの仕方を具体的に教えて頂き、学齢期であればすぐにでも実践すべき内容でした。答案用紙の中から子どものクセを見つけ、問題そのものを探していくことの大切さを学びました。[療育指導員]
- 非常に有意義であった。現場の先生の経験が含まれていて分かりやすかった。[巡回相談員]
- ケースに応じた具体的な方法を教えていただけて分かりやすかったです。もっと時間があつたら良かったです。[児童デイサービス保育士]
- 事例についての話はとても分かりやすく、自分のアセスメントの浅さに反省しました。[療育指導員]
- テンポ良く盛りだくさんのお話が、とても良かったです。事例も多く、各々の子どもに対する支援方策がとても分かりやすかったです。機会がありましたら、是非また聴かせていただきたいと思っています。[療育指導員]
- 事例のお子さんの話が、普段私達の所に相談に来られる内容と同様で、対象のお子さんを想像しながらお聞きしました。
「他者視点に立つ」という事は、支援する側も大切にしていかなければと再認識させられました。
[ソーシャルワーカー]

〈2〉講演2 (12:30～)

「作業の工夫で子どもたちを元気に！」

～作業療法士が提案する教材と支援方法～

保護者

- ツールを活用しようと思いました。
- 道具ひとつで、子どもたちの学習態度がスムーズになることがよく分かりました。色々と要因を想像して試しながら本人にじっくりいくものを最終的には本人が選び決めることが出来るように支援していくことが大切なんだと思いました。そこに至るまでのヒントを支援者は提示していくことなんです。
- 色々なグッズを教えていただけ参考になりました。
- 指サックで圧をあたえることで、その指の感覚が入りやすくなる、というのは参考になりました。タイプを教えるときに使ってみたいと思いました。
- 姿勢保持の大切さをとても感じました。あとはサポート道具をつかって…。
- 今、子どもの筆記用具を探しているのので、役に立つ情報が得られました。
- いくつか、すぐに試したいと思うことがありました。
- 神奈川でも積極的に、学校にOTを入れて欲しいと思いました。
- 具体的なツールの紹介など、具体的な内容がとても参考になりました。リコーダーの練習への支援など、すぐに始めようと思います。
- 作業療法というと、インナーマッスルを鍛えたり、本人の努力を主とするものと考えていたのですが、サポートツールの活用によって、学習に意欲や達成感、自己肯定感が生じるのだと感じました。
- クッション、指先サック、ぜひ試します！丁寧にありがとうございました。
- ちょっとした工夫で、やりやすいように促せるヒントが多かった。
- 具体的な方法がみえてきました。
- 支援グッズがいろいろあることを知り、参考になりました。
- 配慮のある細かい道具がたくさんあると感心しました。
- リコーダーの練習やコンパスを家庭で試したいと思いました。又、学校側の協力・理解度で成果が大きく違ってくると感じました。
- 講演1と同じく、具体的な道具があることを知り試してみたいと思っています。[保護者・にじの会会員]

- 勉強になりました。
- 息子は不登校なので、学校での困り感がよく分からなかったのですが、小学校の頃もしかしたら“リコーダーが吹きにくかったのかも”とか“消しゴムをあまり使わないのは使いづらいのかも”と気付きました。「手が疲れる」と言っていたのを「なんで？これだけで？」と責めてしまったことが悔やまれます。
- たくさんの事例を伺えて、大変参考になりました。うちの子どもも文具に拘りがあったので、うなずけることがたくさんありました。他の子の中で特別なことをイヤがる子が多く、個別で力が弱い子をサポートできればと思いました（周りの子も、その子だけは嫌がる）。
- 大変勉強になりました。「障害は作業や環境の中にある」との言葉が印象に残りました。
- ちょうどリコーダー学習が始まるころでしたので、大変参考になりました。うちの子OTを受けていますが、作業療法士と学校の連携がもっと密になってほしいと切に願っております。[保護者]
- 作業療法からの視点は必要だと思いますが、また学校に特別な資格が入ることにより実際の子どもへの支援が他人任せになるのではないかと危惧します。
- 初めての経験でした。皆さんで方向を求めるのは、いいことですね。

教員

- 道具の使い方、今まで無理と思っていたことを可能にできるかもと思えた。
- 専門的な視点が新鮮でした。教えていただいた教具を実践したいと思います。
- 作業療法の立場からの支援方法を聞くことができよかった。学習面での指導と作業療法からの支援と合わせてやっていければ、より効果があると感じた。
- 具体的でとてもわかりやすかったです。
- 実際に療法士の方のお話を伺ったのは初めてだったので、生の声を聞かせていただけてよかったです。
- 子どもが作業を行う上で、道具によって支えることができる可能性が大きく広がっていることに驚きと感動をおぼえました。鉛筆の持ち方は気にしても、鉛筆そのものや消しゴムの使い勝手にまで思いをはせることが出来ていませんでした。新しい視点を持つことができました。
- 教材の支援方法の講演は、とても役立ちました。明日から、早速使ってみたいと思っています。特に、「はさみ」「コンパス」「リコーダー」「なわとび」の工夫については、とても名案だと思いました。リコーダーについては、とても苦戦していたので良かったです。
- 具体的な道具やその使い方についてもお話があり、活用していきたいと思いました。
- 教具や使い方の工夫を、実践例をふまえて分かりやすく説明していただき、明日の指導から使えるもの、参考になりました。
- わかりやすかった。教具を選ぶ大切さがわかった。
- まだまだ中学は固いな、精神論が残っているな、と思いました。辻先生のような作業療法士の方をもっとお迎えして、中学校教員の意識を変えなければと感じています。
- 作業療法士の視点から支援教具の話をお伺い、それぞれの教具の必要性を実感できました。個々の児童にあった教具を揃えることは、なかなか難しいとも思いますが、できることから少しずつやっていきたいと考えます。
- 昼休みに展示を見せていただいたので、よく分かりました。具体的な事例（子どもの様子、どんな感覚なのか）をもっと聞けると良かったかもしれません。
- すぐに使えるツールの提示・その有効性を、事例をもとにお話してくださり、実際に使いたいと思う物がいくつかありました。子どもに合わせた使い勝手の良さを試していくことも大事であると思いました。
- 医療との連携で、その子その子に合った支援を充実させることが大切だと改めて分かりました。
- 子どもに合った文具を探してみたいと思います。
- 知られざる支援方法が知れました。

- 後半の具体的なお話がとてもわかりやすかったです。ぜひ、作業療法士の方にも現場をみて指導していただきたいと思いました。
- 実際に教材教具を使って、教具について学びたい。
- とても勉強になりました。
- 現在の子どもの多く、今とても必要な面だと常々実感している分野です。学校に気軽に作業療法士の方が入って、アドバイスして下さるようになると本当にいいですが。
- 子どもの不器用さや感覚運動の困難の背景はいろいろあるというところが心に残った。学習だけでなく、作業もやれるところからやるという考えがよくわかった。はさみで紙を切るのも、スモールステップというのがわかった。
- 鉛筆の持ち方、ぞうきんの絞り方、姿勢保持、親御さんとの協力・協働が必要と感じた。親にも、こういうものでどんどん発信したい（外に出て欲しい）。
- 道具に対する具体的な工夫を知ることができた。子どもの困難さを見極め、合った支援をしたい。以前、教育委員会から案内が来たが利用しなかった、気軽に作業療法士を活用させてもらいたいと思った。
- 子どもの学習意欲が環境（場、道具）によるものということを改めて感じた。
- “土台の部分”のお話が分かりやすく、山田先生のお話と関連付けてうかがえたことがとても良かったと思います。土台の部分は人に伝える時にはとても難しさを感じてしまいますが、辻先生のお話は本当に納得できるものでした。

作業療法士

- いろいろなヒントがたくさんあり、すぐに参考にできそうな内容で、いろいろ学ぶことができました。ありがとうございました。
- 様々な職種の方々と一緒に働く時のOTの役割を改めて確認できました。ありがとうございました。
- 子どもの「できない」という点にばかりこだわらず、こういう方法や道具を使うと「できる」かもしれないという発想が必要だと思いました。普段何気なく使っている道具と身体の関係、認知、行為を繋げて考えていきたいと思います。
- 具体的な教材の紹介をして頂き、すぐに使える支援方法ばかりでした。自身も同じOTとして、改めて作業の視点を考える機会になりました。ありがとうございました。
- 色々な工夫がされてある文具がたくさんで、実際使ってみました。少しの力でしっかり書け、重さや滑りどめなど安定して持てました。
- 動作と身体の使い方、触覚や固有受容覚の入り方など、うまく噛み合っているとと言えるのだと再認識しました。また、鉛筆の持ち方について、パワーや手指分離などの必要な要素がきちんと育たぬままに、鉛筆を使って文字を書く行為が、早期教育によって上手くできないこともあるなど勉強になりました。
- 知らなかった支援のアイデアを増やすことができた。（リコーダー、コンパスの工夫）両親や先生に説明するための技術を知ることができた。
- 教具か道具の操作か適応は、OTの専門分野でもあるので、色々工夫していきたいと思いました。
- よかったです！ありがとうございました。
- 学校等に足を運んで支援方法を考えられるよう、仕組みづくりを頑張らなければと思いました。分かりやすいお話、ありがとうございます。
- アイディアが豊富で勉強になりました。まだ臨床で取り入れられてないものがあったので、早速やってみたいと思います。UNIのシャーペン、購入してみます。

その他

- 体験的な参加の工夫があってもよかった。[巡回相談員]
- だらけている、サボっている、と見られがちな人達と多く関わる中で、感覚の問題はなかなか考えが及ばない事も多いので、OTさんが一緒に考えられるというのは心強いと感じます。[ソーシャ

ルワーカー]

- 私もOTの先生と一緒に仕事をさせてもらいますが、「できない」事に対しての視点はとても勉強になります。我が子も施設で利用者として働いていますが、今ではこのようなグッズが出来てすごいなあと思いながら、早速息子に試したいと思いました。[療育指導員]
- 体や感覚的な視点をふまえて、教材教具の活用の仕方を教えていただけて分かりやすかったです。運動・遊びの場面でのお話も伺ってみたいです。[児童デイサービス・保育士]
- 力の入れ具合、調整の難しさ、ゆえに生きづらい、疲れるなどの症状を一つ一つ丁寧に教えていただきました。学校でも教員がそのことを知って、アドバイスをしていけないといけませんね。[療育指導員]

〈3〉ワークショップ (14:15~)

「子どもの解答用紙から何を読み取るか？」

保護者

- 読み取れる先生、いろんな視点があるということに驚きました。
- 困難なことの要因をいろいろな角度からとらえ、いろいろな形の支援をいれていく中で柔軟に支援を変化させていくことが大切なんだと思いました。グループで意見を出すといろんな意見があるので、現場の先生方もこのようなグループ討議をしてもらう機会があるといいと思います。
- お話しする中でたくさんの意見や視点が出てきて、楽しくとても勉強になりました。
- とてもびっくりしたのは、テーブルの方が全て支援側の方だったことです。世の中、捨てたものじゃない。ありがとうございました。
- 学校の先生や療育の専門職の方が多くみえ、とてもレベルの高いワークショップで一保護者には難しかったですが、ワークの間にも多くの事を学ばせて頂きました。皆さん知識豊かで、こんなに沢山の専門職の方が勉強にみえる事に心強くとても嬉しく思いました。つまずきの原因、多くの具体的な支援について、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- とてもレベルの高いお話が聞けて参考になりました。
- おもしろかったです。いろいろな見方があるが、問題を明確にするのは難しいですね。
- 人数も多くて話が聞きにくかったです。他のグループの発表なども含めて、いろいろな見方があるんだなと勉強になりました。細かいところまで目がいっていなかったと反省しました。
- 違う立場の方からの色々な意見が聞けて良かったです。
- 難しかったですが、いろいろな見方があることがよく分かりました。
- 立場の違う方といろいろと協議できて楽しかったです。
- あらためて、目からウロコです。
- 他のグループ、先生からの細かく観察したポイントを共有できて、子どもの良い所、課題が広く分かりました。
- とてもハイレベルだと思いました。
- 子どもの解答用紙の見方や子どもの観察の仕方、その程度まで細かく見ていくかということ参考になりました。親が「てきとー」になるので、子どもの困り感を分析する力もなく、二次障害になってしまっているので、早い段階でこれからは適切な支援を受けられるシステムになることを願います。
- 私は保護者ですが、これだけの先生方が参加されて意欲的に取り組んでいただけるのが嬉しかったです。
- 我が子の解答用紙の見方が分かりました。
- 同じグループで、教員の方々や療育のワーカーの方がいらして、プロの目から見た意見がとても参考になりました。
- 解答用紙から色々な特徴を見出すことが出来るのだと感じました。
- 作業療法士さんの説明の中で、将棋の時の姿勢の乱れを指摘されていましたが、それは彼にとってリラックスしているので、そこまで分析として入れるべきではないと思います。

教員

- グループで話し合ったこと、その中で様々な立場の方からの話はとても有意義でした。
- 達成感←具体的支援。姿勢・環境。
- 具体事例を評価し、手立てを多面的に考え、更にその子の課題の中心を見極めていくことが大変勉強になり楽しかったです。もっと継続して学習していきたいです。
- とても勉強になりました。
- 具体的な話が色々出されて、有意義でした。
- いろいろな方々のいろいろな意見が伺えて、たくさん学ばせていただきました。今後に活かしていきたいと思います。
- 事例を色んな方向から分析でき、勉強になった。
- グループでいろいろな方との深い討議ができて良かったです。その後の講師の先生方の詳しいお話があり、とても有意義でした。
- グループで分析することの難しさと、そのことに自分が慣れていないことを感じました。トレーニングが必要だと思いました。一つの現象から決めつけないで、色々な視点、関連性も含めて考えるという、子どもの行動をみる大切な視点を持てて良かった。
- 実際に障害を持ったお子様がいて、頭を悩ませている保護者の方や作業療法士さんなど、様々な方の意見を聞くことができて良かったです。こんなに必死に勉強されている保護者の方々の力に少しでもなりたいなと感じました。私たち教員ができることをもう一度考えて、子どものために、その家族のために精一杯がんばりたいと思いました。ありがとうございました。
- いろいろな立場の方から視点をもらうことができました。
- 実際のお子さんの作文やプリントから読みとっていくことは大変勉強になりました。
- 一人の児童で、いろんな状態を複数の人で読み取ると、いろんな見方ができるのがとても参考になった。
- おもしろかったです。DVDの少年の家庭、とても温かく恵まれていると思います。他人の評価、自己モニタリングは、とても難しい…。中学生でも欠如している生徒はたくさんいます。
- 事例をビデオ・プリント等の資料で提供していただき、実践的に分析作業を体験でき勉強になりました。グループの方と意見交換でき、有意義でした。
- 実際に役立つ学習でした。たくさん目で考えると、深い分析ができるといい機会になりました。
- 親の立場、作業療法士の立場、教師の立場と様々な角度から話が聞けて（できて）良かった。
- 子どもを知ること、困り感を見つけていくことの大切さを感じました。しっかり読み取り、課題に繋げられるよう、たくさんたくさん読み取っていこうと思います。
- 様々な立場の方の意見を聞き、とても勉強になりました。
- 司会の先生がリーダーシップを発揮してくださった。内容も気付かなかったことが分かった。具体的に読み取る、学びとることができてよかった。
- 大変勉強になりました。見取りと手立ての重大性がよくわかった。質問コーナーもとてもよかったです。
- 少ない情報から、その子の特徴を分析し、支援策を考えていくのは難しいなと感じました。教師だけでなく、様々な立場の人も入って色々な面から分析し、支援策を考えていければいいなと思いました。そのような体制になることを願っています。
- 様々な立場の方々とお話しする機会を持つことができて、とても有意義でした。保護者の方の意見がとても勉強になりました。

作業療法士

- 普段接することの少ない学校の先生等からたくさん意見が聞けて大変勉強になりました。今日1日ありがとうございました。
- 他職種の方、親御さんとディスカッション出来たことが良かったです。とても勉強になりました。

また、是非参加させて頂きたいと思いました。

- どのグループも一致する見方があるということは、丁寧に見ていくことで、その子どもへの適切なアプローチがみつけれられるように思いました。ありがとうございました。[作業療法士・療育]
- 実際の子どもの様子から観察することで、その子の特徴をつかみ解決策や対応策を考えていく過程が、実際に取り組んでみて分かりました。いろいろな視点をふまえて、気づきながら支援の手がかりになればと思います。
- 親御さんの気づきや意見を聞いて、大変参考になりました。
- 子どもたちの生活の中に支援を知るためのヒントがたくさん詰まっていることを知りました。何よりも、本人の特性の理解が一番だと思いました。
- 受講生の解釈観察は優れていたと思います。先生方のコメントも役立ちました。
- 様々な意見（ご家族の方々）が聞いて、参考になりました。
- いろいろな職種の方やご家族の方々と、1つのテーマをいろいろな視点からディスカッションできて、とても勉強になった。最後に講師の先生からまとめていただいて、よりケースの方の全体像を理解できて本当に有意義な時間でした。ありがとうございました。また参加したいです。

その他

- とても勉強になりました。チームになると色々な視点からの意見も参考になりました。又、先生方からのまとめで、改めて自分の視点はどうだったかと振り返ることもでき、今後の仕事にとっても役に立つ見方を教えていただけました。[療育指導員]
- 自分の意見が案外偏っていたことにも気づきました。保護者の方もたくさんのグループに入っていて勉強になりました。[療育指導員]
- いろいろな立場からの視点が有意義でした。他者視点、とても参考になりました。グループワーク前に、アイスブレイクがあるといいと思いました。[ソーシャルワーカー]
- よい試みでした。[巡回相談員]
- プリントやVTRでの読みとりや見立てをする機会が少なかったので、とても勉強になりました。先生方の解説も丁寧にお話していただけて良かったです。[児童デイサービス・保育士]

3. 「特別支援教育」「発達障害者支援法」に望まれることやその他ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

保護者

- 1日通して、とても良かったです。
- 専門的な勉強をした先生に指導して欲しいです。（今は週1回1時間を全て書き順の勉強をしています）もっと指導者を増やして欲しいと思います。
- 個別支援級に在籍していても、先生方が発達障害について理解がなく苦勞しております。これから先生になる方々への特別支援教育についての指導を充実させて欲しいと思います。
- 在籍校では、特別支援教育など行われていないのが現状です。どこの学校でも等しく受け止められる様になると良いと思います。勉強が出来る高機能の人の（IQ 高めの人）支援をもっと充実してほしいなあと思います。
- 教育現場における発達障害の理解はまだまだだだと思います。名ばかりの特別支援教育コーディネーターやインクルージョン教育で、学校で二次障害を受ける子どもも少なくありません。今日は大変勉強になりました。このような活動がさらに周知されるよう願っております。
- 個人に合わせたサポートを長期的に見てもらえる様にしてほしい。生徒が多く指導者側が一杯いっぱいだと結局ぶつ切れになってしまい、身につけられることも減ってしまいそうな気がします。
- 知的遅れのない子の手帳取得による就労のサポート。
- 先生方の自己満足にならないように、本当の意味で子どもの成長のための支援をお願いしたいと思います。（障害者がビジネスチャンスになりませんように）
- 普通学級の先生方にも個別指導のノウハウを学んでほしいと思います。普通級から支援級に

移ってから、慌てて支援の勉強を始める先生がほとんどで、慣れた時には他校へ異動となる先生も多いです。

- 横浜市では支援が進んでいるという話を聞きますし、今日のような講習会があつたりしますが、いざ学校で話しても昔のままのようで温度差を感じています。現場で困っている親子がたくさんいます。
- グレーゾーンの子たちの早い時期からの支援で不登校・二次障害を予防できるようなシステムが構築されることを望みます。また、不登校児への適切な支援も。
- 一日も早く、全ての学校に子どもに合った支援教育を！！
- これからもっと色々な方に理解してほしいです。

教員

- LDへの支援等、さらに専門的なことがニーズとして高まっているので、これからも機会が多くあったらと思います。
- 今日感じたことは、発達障害のある人たちを支えることは、何か特別な人のためのことではなく、誰もが生き易くなるための内容が多く含まれているということ、たくさんの人に持ってもらうことだということです。本日のこのような機会はとても大切だと思いました。
- 障害をもった子どもへの理解をたくさんの方々知ってもらいたい、と思っています。私も、限られた子どもたちとしか関わったことがありませんが、それぞれ特徴を理解して発達障害の子どもたちとたくさん関わっていきたいと思っています。ありがとうございました。
- このような研修の機会が、もっとあると良いなと思いました。ありがとうございました。
- 一部の教員対象だけでは、もったいない講演でした。特に神奈川の中学はまだまだ発展途上。支援とは何か、サポートと「甘え」「許容」は別物という意識と知識を全教員が自覚・習得せねばと思います。
- 特別支援教育は、これからの学校教育のベースになっていくのではないのでしょうか。全ての教師・保護者に広く理解して欲しいと思います。
- 学校で教材購入がもっと楽にできるといい。手続きに時間がかかる。高価である。100円均一等で材料を買って手作りもしています。自腹が一番はやいですから。絵カードのデータを買えるといい。手作りするにしても、とても助かります。サポートツールデータベース、見ました。とても助かります。辻先生の仰る欧米のような作業療法士各校？配置が理想です。
- 通常学級の担任の発達障害への理解を高める。サポートのあり方を広く知らせていく。(個別指導の体制を組める、特別支援級に在籍していない児童がたくさんいます。)
- 40名を見ながら、その中の支援を必要としている子ども達に合った教材を作り、支援をしていくことに、現場の先生方は疲れ切っています。特別支援への予算をもう少しつけて、副担任をつけてほしいです。
- 又、参加したいと思います。
- 特別支援教育の専門家による学校への来校頻度を高め、コンサルテーションを行う機会を増やして欲しい。専門家養成研修の充実を図り、校内の推進リーダーを増やすと共に、地位の確立を図っていきたい(横浜でも)。
- 特別支援教室。
- コーディネーターの養成は行われていても、実際受けてもコーディネーターにならずにそのまま過ぎてしまう人も多く、組織作りはできても子どもへの支援やアドバイス、面接技術が全く…という人もいます。今日の大阪の先生のような技術…。
- 学校の教育より以上に、家庭での教育が大切であると考えています。家庭で実践できる、主に生活面での支援方法などが知りたいです。本日はありがとうございました。
- このような機会をいただき、本当にありがとうございました。

作業療法士

- どの年齢でも、どこであっても、同じレベルの支援を受けられることを望みます。
- 現在、情緒障害児短期治療施設の子ども達に携わっています。行動障害の背景に発達障害や幼少の頃の関わり、学びのタイミングに問題があると思われる子が多くいます。その子に合った対応がもっと丁寧に系統的に行われると、考えの整理や自信の構築ができると思います。支援者側のより深い理解やスキルアップが求められていると思います。本日は大変有意義な時間を過ごせました。ありがとうございました。
- 巡回相談員をするにあたり、1回/3～4ヶ月程度の頻度でしか出来ておらず、またその1回のみでは中々お子さんの状態が把握できない状態です。もっとより良い支援をする為に、医療機関（厚生省）と教育機関（文科省）が協力し合える体制作りがしていけたら…と思います。

その他

- 継続的にこういう勉強をする場を与えていただけるとありがたいです。本日は本当にありがとうございました。[児童デイサービス・保育士]
- 県、市にもがんばってほしいです！ [ソーシャルワーカー]
- 大学入試では少し始まりましたが、高校・中学の入試でも特性にあったサポートを受けて、テストが受けられる制度が広がっていったらよいと思います。小学校、中学校の教員のレベルUP！！色々なニーズに応えられる人材の育成にも国からお金をかけて頂かないといけませんね。[療育指導員]

